

コギク新品種「小夏の星（仮称）」の育成

研究のねらい

コギクは、本県の花き生産振興品目のひとつに位置づけられており、平地から中山間地まで幅広く生産されています。コギクは露地季咲き栽培が中心のため気候の影響を受けやすく、また、県外で育成された品種では、育成地と気候条件が異なり、開花期がずれるなどの問題もありました。そこで、本県の気候や栽培条件に適応し、需要期に安定して開花する品種の育成に取り組み、8月盆向けの2品種「小夏の風」（白色）、「小夏の月」（黄色）に続く7月咲きの品種を育成しました。

技術の特徴

1 育成経過

- (1) 平成20年に「在来黄色夏秋ギク」と「小夏の月」を交配し、平成21～25年に選抜と特性調査を行いました。
- (2) 商品性評価のため、平成25年に生産者と市場担当者に聞き取り調査を行い、優良品種であるとの評価を得ました。
- (3) 平成25年12月、農林水産省に「小夏の星（仮称）」として品種登録出願し、26年5月15日に公表されました。

2 品種の特性

- (1) 花房の形は円錐形で、茎の下部からの側枝発生が少ないため収穫調製の作業性に優れます（写真1）。
- (2) 葉は濃い緑色で、花色は鮮やかな黄色です（写真2）。
- (3) 開花時期は、県内平地で7月上旬、中山間地で7月中旬以降です。
- (4) 現地試験における慣行栽培では病害の発生は少なく、栽培が容易です。



写真1 「小夏の星(仮称)」草姿



写真2 「小夏の星(仮称)」花型

今後の取り組み

- 1 平成26年度は、普及の現地実証試験で現地7か所において、季咲きや植物生長調整剤を用いた7月～8月出荷向けの作型検討を行います。
- 2 平成27年春から生産者（県園芸協会花き部会員）に原種苗を配付します。「小夏の風」、「小夏の月」と併せ、生産者・農業団体・県が一体となり、県オリジナル品種として生産および販売に取り組みます。
- 3 農業技術センターでは、コギクのオリジナル品種のシリーズ化を計画しており、赤色品種の育成に取り組んでいます。

（執筆者：村崎 衣里）